

住み慣れた地域で安心して暮らしていける支え合いのまちづくり

栃木市 地域包括ケア推進課

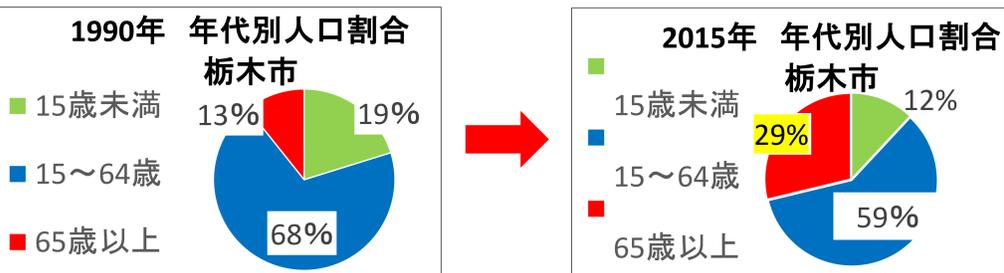


11班 コミュニティデザイン学科 狩野里奈 矢辺彩香
 建築都市デザイン学科 小林未奈 朽澤康太
 社会基盤デザイン学科 小幡竜馬

背景

地域住民同士のつながり減少
 高齢者が安心できる生活の支え手の減少

全国的に少子高齢化・人口減少が起こっていて、栃木市も例に漏れず少子高齢化が発生している。「団塊の世代」と呼ばれる方々が高齢者に含まれるようになったが、人口減少や生活の多様化により地域の中でのつながりが希薄になり、以前には生活の中に自然に存在していたお年寄りを見守るといった体制がなくなりつつある。このままでは、これから先増えていく一人暮らしのお年寄りまたは高齢者のみの世帯の人たちが、安心して慣れ親しんできた土地で暮らしていくことが困難になってくるだろう。従って、高齢者の方たちの地域との社会的つながりが必要である。



注：総務省 国勢調査の人口推計データを用いて作成

目的

住み慣れた地域で安心して暮らすために地域住民同士でつながり支え合うにはどうしたらよいか

栃木市万町田村小路自治会は栃木市で一番古い自治会で、かつては映画館や駄菓子屋などが子どもたちで賑わっていた。現在では以前のような賑わいは見られず、空き店舗や駐車場が多く人通りは少ない。古い住宅に長く住み続けている高齢者が、将来に不安を抱えながら生活している状況である。このような地域で、どのようなまちづくりが求められているのか。わたしたちはまず、住民からまちの歴史と今についてとまちづくりのニーズを聞いた。それを踏まえてわたしたちの目的を「以前のような住民同士のつながりを再生するため、地域交流のきっかけ作り」とした。



方法

全国で行われている、他の自治会の取り組みを調べる
 地域でのヒアリング調査を行う

現地概要の調査

- ・市役所
- ・自治会内のまち歩き

地域への聞き取り調査

- ・自治会役員とミニWS
- ・ヒアリング調査
- ・Mapping

他地域の事例調査

- ・地域交流イベント
- ・見守り事業

提案

分析結果

支え合い活動だけでなく、地域を盛り上げるイベントや行事、人が集まりやすい環境(ハード面)が必要

万町では「栃木市地域支え合い活動」として見守り活動がおこなわれているが、子どもの減少による子ども会の消滅や進む高齢化によって住民のつながりと支え合いは難しい局面を迎えている。また、田村小路自治会では、住民のためのイベント(ラジオ体操、将棋教室など)が開催されているが、参加する人は限られており子どもがいないために継続が難しいという話もあった。

地域を盛り上げるイベントや行事について住民に要望をきいてみたところ、「幅広い年代が楽しめるイベントをしてほしい」という声があがった。

また、人が集まる場所として街中の駄菓子屋とその手前の空いたスペースは、子どもから高齢者までが交流できる場所として候補に挙がった。



提案

交流のきっかけを作るためのハードと仕組みの提案

・イベントの提案

自治会のイベントや行事が開催される「公民館」
 →既存の活動だけでは同じメンバーしか集まらない
 ⇒幅広い年代が楽しめるイベント
 「スポーツイベント」(卓球…隣の自治会と共同で開催)
 「音楽教室」(楽器、合唱)住民が先生となり指導

・環境整備の提案

空き店舗や駐車場が目立つ、狭い道が多い
 →活気が感じられない、安心して散歩できず出歩く人が少ない
 ⇒空き地を利用し、共有スペースを整備
 「立ち話スペース」
 ⇒車通りが少ない細道を整備
 「散歩コース」



町中の駄菓子屋の様子

